

## 「ふしぎ?ふしぎ!<時間>ものしり大百科」I

見える<時間>くらしに役立つ時計と暦(J42171)

藤沢 健太/著 山口大学時間学研究所/監修



きみは、毎朝何時に起きる?出かけるまでに「ほら、時間がない」なんて言われてない?そもそも「時間」ってだれが決めたのかな。目に見えない時間をどうやって計ったんだろう。「時間」のなぞを解き明かそう!

シリーズは全3巻。

2.飛びこえる<時間>タイムマシンのつくり方(J42172)

3.感じる<時間>生き物のからだと時間(J42173)

### でかぞうクラブ

#### 「まほうのわ」の実験とおはなし会

日時:3月27日(日)14:30~15:30

場所:狭山台図書館 2階 視聴覚室

対象:小学3~6年生 定員:8名

費用:無料

申込み:3月19日(土)10:00から 狭山台図書館へ(電話可)

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、日程変更や中止の場合もあります。図書館のホームページでご確認ください。



### さやまの100冊

「子どものときに読みたい本100冊」(さやまの100冊)は、狭山市の教育委員会がおすすめしている本です。



図書館のホームページから、読みたい本の予約ができます。休館日や開館時間、イベント等の最新情報もこちらからご確認ください。



狭山市立中央図書館 ☎ 04-2954-4646

狭山市立狭山台図書館 ☎ 04-2958-3801

狭山市公式HP <http://www.city.sayama.saitama.jp/>



# よむぞうタイムズ

83号

5年生 6年生

狭山市立図書館 2022.3.1発行

きみにとってこの一年は長かった?それとも短かった?楽しい時間はあっという間に過ぎるし、たいくつな時間はなかなか進まない。なんだか不思議だね。今回は「時間」をテーマに本を紹介します。



### 「ズッコケ三人組の卒業式」花山第二小学校六年一組(JP+/JM+)

那須 正幹/作 前川 かずお/原画 前川 澄枝/キャラクター監修 高橋 信也/作画 ポプラ社



卒業記念に自分たちだけのタイムカプセルをうめようと思いついたハチベエ、モーちゃん、ハカセの三人組。人目につかない場所であなをほったら四角い箱が現れた。もしかしたらこれもタイムカプセル?ところが、この箱を探してあやしい人物が動き出した。ハチベエの身に危険がせまる。危うし三人組!



### 「絵ときゾウの時間とネズミの時間」(J481E)

本川 達雄/文 あべ 弘士/絵 福音館書店

人間の心臓は、1分間に60回ほど打っている。体の小さなハツカネズミは600回、大きなゾウは30回。ゆっくり打つ大きな動物は、早く打つ小さな動物より寿命が長いんだって。大きい動物にはゆったりと、小さい動物にはとても早くそれぞれの時間が流れているんだね。



### 「サムライでござる」(JPI)

広瀬 寿子/作 曾我 舞/絵  
童話館出版/あかね書房



「いずれの御家中であられるか。」祭りの武者行列の前にとつ然現れた少年武士は、明智家の家臣、小太郎と名乗った。雷にうたれて、戦国時代から現代へタイムスリップしてきたらしい。哲也の家に預けられた小太郎は、殿の命に係わる史実を知ってしまった。殿の一大事なのに、帰る方法がわからない。どうする、小太郎！

### 「源平の風」白狐魔記 (JFサ)

斉藤 洋/作 高畠 純/画 偕成社

若ぎつねは人間のことがもっと知りたかった。言葉を覚え、仙人の元で修業をして人に化けられるようになった。白狐魔丸という名をもらい山を下りると、時代は源平の合戦後の武士の世。僧りよに化身した白狐魔丸の前に、兄に追われにげ落ちる義経たちが現れた。

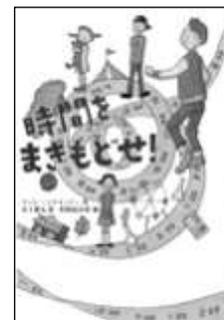


シリーズは7巻。時をこえて、時代の節目に眠りから目覚める白狐魔丸と、歴史のはざまでけん命に生きる人々との運命が交さくする。

### 「時間をまきもどせ!」(JSI)

ナンシー・エチメンディ/作 吉上 恭太/訳  
杉田 比呂美/絵 徳間書店

ギブは見知らぬ老人から「どんなまちがいても、やり直すことができる」という機械を手渡された。老人は「今夜、それを持っていきなさい」と言うと、暗やみに消えてしまった。その晩、移動遊園地でギブが目をはなしたすきに妹のロキシーが事故にあってしまう。この機械はロキシーを救ってくれるのだろうか？



### 「時をさまようタック」(JFバ)

ナタリー・バビット/作 小野 和子/訳 評論社

新しい土地を求めて長い旅を続けていたタック一家。大きな森の中で見つけた泉の水でのどをうるおした。その水がタック一家の時間を止めてしまった。老いることも死ぬこともできない。ジェシー・タックは言った。「世界のおわりの日まで十七歳なんだ。」永遠の命を生きる家族の物語。



### 「ラスコーの洞窟」ぼくらの秘密の宝もの (J7027)

エミリー・アーノルド・マッカーリー/絵と文  
青山 南/訳 小峰書店

1940年、ドイツ占領下のフランスで4人の少年が古い洞くつを見つけた。<sup>せんりょうか</sup>暗く湿った穴を抜けてランプをかざすと、巨大な赤い牛の絵が現れた。彼らが目にしたのは、一万七千年もの間、だれにも知られることなく地中に眠っていた人類の宝だった。



### 「秘密のマシン、アクイラ」(JSノ)

アンドリュウ・ノリス/著 原田 勝/訳  
長崎 訓子/絵 あすなる書房

校外学習で石切り場に行ったトムとジェフ。すべり落ちた穴の中で不思議な物体を見つけた。これって古代ローマ時代のもの？二人が中に乗りこむと目の前のパネルが光り、ボタンをおしたしゅん間空を飛んでいた。「いったいなんなんだ？」なぞの物体の秘密にせまる。

